

Oita Yufumi

VOL.16

Hospital

発行／令和元年 7 月

大分ゆふみ 病院だより

 大分ゆふみ病院



院長ごあいさつ



院長 一万田 正彦
いちまた まさひこ

「時代が変わる中で」

今年は元号が平成から令和に変わり、新たな時代の幕開けとなりました。全国にある緩和ケアを提供する施設は、殆どが平成の時代に始められており、それらの施設が令和の時代にどのように発展していくのか期待しているところです。

また、がん治療においては、昨年ノーベル賞を受賞された本庶佑教授が開発したオプジーボは、がんを治してくれる夢の治療薬になるかもしれないと大きな期待が集まっています。治療の選択肢が増えることでこれまでであれば、がん治療を終えていた患者さんが、治療を継続しているケースが増えています。

大分ゆふみ病院には、がんの治療が難しくなり、標準的な緩和治療・ケアを行っているにもかかわらず、苦痛症状や辛さが残り、症状の改善が難しい状況となって入院される方が多くいらっしゃいます。治療の選択肢が増えることは患者さんにとってはありがたいことですが、どのタイミングで、がん治療主体から、緩和ケア主体に移行するのかが、難しくなることがあります。

当院での入院の対象は、がん治療を終えた方のみになっていますが、外来での痛みや苦痛の緩和は、がん治療の有無にかかわらず、対応しています。困った症状のある方は、ご相談いただければ、より良い方法を提案いたします。

時代が変わり、医療も進歩し、それにかかわる私たちも、時代に沿った対応が求められると思います。

大分ゆふみ病院は、がん患者さんとそのご家族の支えとなるべく日々精進を重ねていきます。そして患者さん・ご家族にとって「ここに来て良かった」と言っていだけるような病院を目指しています。

ご親族より

「妻と私とゆふみ病院」

久富 豊治《患者様のご家族》

こんな山の中にあるのかな。いぶかりながらたどり着いたゆふみ病院は大らかな自然にまどわれて、静かに、悠然として、いかにも病院らしく見えない木造の建物でした。五年前入院していた友人を初めて見舞ったときの記憶です。そのとき私の脳裏に去来したのは、妻もいずれはここを頼るめぐり合わせだろうか。という淡い切ない予感でした。

果たして予感は現実となりました。八年間は大学病院で入退院を繰り返しながら続いた治療も限界にさしかかり、優しくった主治医は少し口ごもりはしましたが、はっきりと「ゆふみ病院を紹介しましょう」と、青ざめる私の顔を覗き込みました。私は声も出せずにうな垂れたまま、筋になった鼻水が床に届くのを拭いもせずに見詰めるだけでした。

それから、内心ではきっと不安もあったに違いない妻のホスピスケアと、私の付き添い入院が始まりました。書き替えのできない筋書きで後戻りも転向もできません。妻にしてみればケアそのものが生活であり、私には付き添いが同時に生活という非日常的な日常を、病院の大きな力に支えられながら、妻も私もしらしんけん、渾身の力で生きました。

先生方の識見と、豊富な経験、加えて柔和なお人柄には厚い信頼を抱きました。担当看護師さんのお心遣いや、すてきな笑顔でいつも和ませて下さった方、そっと一輪挿しを置いて行かれた方、その他にもとても数えきれないほどのご恩を頂きました。皆様方の厚いお志のお陰で、妻も私も生涯で最も重大な日々を安堵と感謝の気持ちで過ごさせて頂くことができました。言い尽くせないもどかしさがありますが私達夫婦の一念です。「ありがとうございました。」

ラウンジもまた素敵な空間でした。この寛容で開放的なたたずまいにどれほど救われたことでしょう。広いガラス戸の向こうに見惚れた四季折々の景色はしっかりと臉に焼きついたままです。妻の寝息を確かめ、そっと抜け出てボランティアの方々のおもてなしによる濃く深く、熱い香り立つコーヒーを口に含んだひとときの充足感は巷の喫茶では決して味わえるものではありませんでした。ゆふみ病院の存在に救われました。ここに来られてよかったと何度も、何度も思いました。

天上人の仲間入りをした妻は、やがて神通力を得てこの大宇宙を自在に飛翔することでしょう。その様子を想像するたび私の顔は弛みます。もうすでに私の周りを蝶のように舞い、小鳥のように羽ばたいているのかも知れません。そっと気配をうかがっている自分に、ふと、気がついて苦笑いしています。

OITA YUFUMI HOSPITAL



中庭の散歩道



外 観



中庭のデッキ



SPRING 春

春の中庭には、しだれ桜をはじめ多くの花が咲き誇り患者さんの心に明るく、そして優しく寄り添います。



中庭



《結婚式》
お孫さんの結婚写真を
緑いっぱいのテラスで
撮りました。



《花見》すご腕カメラマン！ここに
来て、趣味のカメラをもう
一度手に取りました。



《サッカーW》
Iジャパン、ここに集結！

AUTUMN 秋

たくさんの木々が色鮮やかに染まり始める秋、涼しい風を感じながら花を摘んだり笑顔の時間が広がります。



中庭



《中庭散歩》
小さい秋 みつけた♪



《中庭散歩》
紅葉の絨毯をバッグに
笑顔でピース！



《お孫さんと》
かわいいお孫さんと癒しの
時間です。

SUMMER 夏

多くの木々に囲まれた夏の庭は、心地よい風が通り抜け散歩をしたりベンチでひと息など穏やかな時間です。



《父の日》父の日に黄色いバラを贈りました。
「お父さんありがとう」



《結婚記念日》大切な結婚記念日。二人の
仲睦まじい姿に感動しました。



《七夕》ステキな笑顔。空に願いが届きます
ように。



玄関前

WINTER 冬

澄み切った空気の中を冬の鳥たちの鳴き声が響き渡り訪れた家族や友人と一緒に清々しい気持ちになります。



玄関前



《豆まき》
かぼたんと一緒に「鬼は外！福は内！」



《X'mas》
サンタとトナカイがやって来ました♪

《もちつき》
つきたてのおもち。みんなで食べると
もっと美味しい！

《雪うさぎと》
可愛い雪うさぎが遊びに来てくれました！



Yufumi

大分ゆふみ病院は、現在、約50名のボランティアがホスピススタッフの一員として、患者さんやご家族に寄り添いながら、大切な日々を心穏やかに過ごして頂けるように、様々な活動をしています。

ホスピスボランティアは、病院の中に「社会の風、匂い、空気を吹き込む」という役割を担い、家庭的な雰囲気と心が癒される空間と時間を作っています。

月曜日から土曜日まで、それぞれの個性と特技を活かしながら、ラウンジでの喫茶やハンドマッサージの提供、園芸、折り紙、パッチワークキルトの作成、季節の行事への参加など、病院での生活がより豊かになるように努めています。

毎日、ピアノやギター、リコーダーなどの演奏も行われ、心が和むひとときをお届けする存在です。



折り紙



ギター演奏



ピアノ演奏



キルト作成



園芸



アロマハンドマッサージ

リレー・フォー・ライフ



リレー・フォー・ライフ(RFL)は、1985年、米国でがん患者を励まし、対がん運動組織の活動資金を集めることを目的に始まりました。大分県では平成20年から始まり、大分ゆふみ病院は第1回大会から毎年参加しています。病院職員とボランティアスタッフが24時間、タスキをつないで、患者さんにご家族の力になれるように、今年も皆で参加します。

■研修・施設見学受入れ状況 (2018.4.1~2019.3.31)

研修

卒後臨床研修医 10名(大分大学医学部 附属病院、大分県立病院)
看護師研修 3名(大分赤十字病院 ほか)
看護学生研修 82名(大分大学医学部 看護学科)
薬学生研修 8名(神戸薬科大学、九州保健福祉大学、第一薬科大学)

施設見学 20名

医師1名、看護師17名、医療ソーシャルワーカー2名

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分医療センター、豊後大野市民病院、臼杵市医師会立コスモス病院、竹田医師会病院、大分三愛メディカルセンターほか

※入院患者さん、ご家族には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願い致します。

■ホスピス診療記録 (2018.4.1~2019.3.31)

■入院患者数

171名(男性85名、女性86名)

■平均年齢

75歳

■住所分布

大分市133名、大分市外38名

(大分市外：由布市13名、別府市5名、豊後大野市4名 ほか 県内市町14名、県外2名)

■紹介元病院

大分大学医学部 附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分医療センター、九州大学病院別府病院、やまおか在宅クリニック、うえお乳腺外科、大分三愛メディカルセンター、織部病院、井野辺病院、天心堂へつぎ病院、だいかく病院、厚生連鶴見病院、明野中央病院、有田胃腸病院、衛藤病院、大分岡病院、大分リハビリテーション病院、河野脳神経外科病院、小深田消化器病院、新別府病院、九州がんセンター、久留米大学病院、国立がん研究センター中央病院ほか

入院までの流れ

①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

②入院相談外来(医師による診察面談)

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。
※紹介状とX線フィルムなどを持参していただきます。

③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー(相談員)によって行われます。

④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行います。

病院理念

大分ゆふみ病院は

『今を生きる』患者と家族を支えます。

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

■がん疼痛緩和外来〔要予約〕

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。※要予約

■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎ 097-548-7272

電話受付時間／月～金曜日 AM9:30～PM4:30(祝日は除く)

交通のご案内

- バスをご利用の場合
大分駅より大分交通<机張原>行き、
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分